

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫

両団体理事長 半田 晴久

環境技術委員長 坂本 忠彦

両団体専務理事 清原 淳平

## 環境技術委員会のお知らせ (第353回)

日時 平成30年12月20日(木) 午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第2会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第2会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、「環境問題について、昨今、想うこと」

挨拶 坂本忠彦環境技術委員長

2、日本におけるマイクロプラスチックの生態系への影響

解説 高田秀重東京農工大学大学院教授

3、『環境技術関連ニュース NO.175』

解説 中島稔科学技術部会長

報告 去る11月22日開催の第352回環境技術委員会は、坂本忠彦委員長が議長を務め行われました。まず、坂本委員長より、「環境問題について、昨今、想うこと」と題して開会挨拶がありました。今年の冬は、エルニーニョ現象の影響で暖冬になるようだ。最近の気象に関連するニュースでは、気温が上昇する予測は幾度となく聞くが、低下する予測は聞いた事がない。地球温暖化は確実に進行しているといえそう。

次に、清原淳平専務理事より、中村龍平東京工業大学地球生命研究所教授の経歴紹介がありました。次に、中村教授より、「深海熱水噴出

孔のエネルギーによる生命誕生との関連性」について解説がありました。深海を探索していると、光がないにもかかわらず、多くの生命が活動していることがわかる。深海底には、チムニーと呼ばれる熱水噴出孔がある。ここには、内側の熱水層と海水の間に硫化鉱物の壁があり、その壁を電子が通り抜けていることが昨年実証された。沖縄の海底1000m地点では、この電気エネルギーを求めて、おびたしい数のエビの仲間が生息している事が分かった。エビが電気やCO2を食べているのではなく、エビに寄生する微生物から養分をもらって生きているようだ。チムニーの構造はすべて同じというわけではなく、アイスランドのチムニーはマグネシウム、シリカ、CO2の入り混じったもので、この材料は人工光合成と同じだ。これを応用してCO2吸収に活用できないかというのが現在の課題である。

次に、中島稔科学技術部会長より、『環境技術関連ニュース No.174』の解説がありました。今回は、○海は今までに考えられてきた1.6倍の熱を吸収している、という研究結果。すなわち温室効果ガスによる気温上昇の影響はより強く、海水温上昇の度合いもより上がるということになる。○米中貿易戦争の影響は北京の大気汚染状況にも現れた。○原田環境大臣、EM菌の科学的根拠はないとの見解を示す。○CO2から人工光合成を用いて樹脂原料を作る技術に、日本の化学メーカーが業界を挙げて取り組む。光触媒開発では世界のトップを走る。○環境省、プラスチック資源循環戦略の素案をまとめる。バイオマス原料のプラスチックを今後10年で50倍にするなどの目標値を掲げる。○南鳥島沖のレアアースの効率的採取技術を確立。数年後の実用化を目指している。○南海トラフの地殻変動データを解析。複雑さゆえ地震の予知は難しいとされてきたが、異常現象をとらえられれば、地震の規模予測は可能になる。ただ、精度向上にはかなりの時間がかかるだろう。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費千円にご協力をお願い申し上げます。

次回、12月20日(木)の環境技術委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 \_\_\_\_\_

貴方様のFAX \_\_\_\_\_

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の当日会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール [shigeta@jidaisassin.jp](mailto:shigeta@jidaisassin.jp)